

# 障がい者地域自立支援協議会 東 区 事項報告

開催日

平成23年11月16日

タイトル	障がい者のみの世帯への支援について
ケース情報	<p>(障がい内容, 家族構成, 生活環境等)</p> <p>&lt;本人の状況&gt;</p> <p>精神障がい。骨粗しょう症, 糖尿病など既往多くあり, 気分に波がある。 長男と同居。生活保護受給。</p> <p>&lt;相談内容・経過&gt;</p> <p>平成22年11月, 長男からの暴力により別居したいと, 高齢者虐待ケースとして対応開始するが, 長男と会えないまま経過。平成23年9月, 再度 長男の暴力の訴えがあり, 再燃。</p>
検討内容 ※区協議会での 議論の概要など	<p>&lt;ケースへの対応&gt;</p> <p>地域包括支援センターと, 保健福祉センター(保健師)で連携し, 同行訪問を行った。 長男の受診・服薬, および母に対し, 長男の障がい・病気の受容について助言できた。 ↓ 長男なりに反省の言葉が聞かれ, 現在も同居継続している。</p> <p>&lt;今後の課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○ 親の高齢化に伴う親子関係の変化や, その受容に対し, 家族への継続支援が必要。</li><li>○ (高齢者は包括支援センターがあるが)他の機関と, 包括的につないでいく存在の重要性。 ⇒相談支援事業・障がい児コーディネーターなど, 生涯を通じた見守りの役割に期待。</li></ul>

# 障がい者地域自立支援協議会 中央区 事項報告

開催日
平成23年11月2日

<b>タイトル</b>	小学校の敷地内にあるひまわりクラブの移動支援について
<b>ケース情報</b>	<p>(障がい内容, 家族構成, 生活環境等)</p> <p>敷地内で距離も短く, 短時間であるため, 学校, ひまわりクラブを交えた協議を提案するが, 学校が協議に消極的である。</p> <p>学校での問題に福祉が深く関われないため, 特別支援教育サポートセンターを紹介する。</p>
<b>検討内容</b> ※区協議会での議論の概要など	<p>○障がい程度の軽い児童は, ある程度自立を高めるためにお互いの機関が協力すべきでは? 附属特別支援学校は, 教師がポップコーンクラブまで送り, 日中の様子を引き継いでいる。</p> <p>○学校が注意深くなる要因(保護者から学校へ強い要望等)でもあったのではないか?</p> <p>○今後も特別教育サポートセンターと協力して支援していく必要がある。</p>

<b>タイトル</b>	ヘルパーへの要求が多い身体障がい者と家族への支援について
<b>ケース情報</b>	<p>(障がい内容, 家族構成, 生活環境等)</p> <p>50代男性。身体障害者手帳1級(上下肢不自由), 頸椎損傷。妻, 義母と3人暮らし。</p> <p>四肢に麻痺があり, 下肢は全く自分で動かすことができない。上肢は腕と手指をわずかに動かすことができる程度。食事は自助具をつけてもらって自力摂取可。入浴は行なわず清拭のみ。留置カテーテル, 摘便。</p> <p>月1回の受診以外はほとんど外出することはない。</p> <p>妻の精神状態は不安定で, レスパイト状態である。</p> <p>妻の母は, 耳は遠いが体調に問題はなく, 本人の介護も可能な部分はあるが, 妻からあまり動かないように言われており, やりたくてもできない状況。</p> <p>本人は妻に対して強く負い目を感じており, 妻の言うことに反論できない。妻の負担を軽減したいということで年々ヘルパーの支給量を増やしてきている。</p> <p>妻はヘルパーに対し, 本人の居室以外の掃除, 庭の草むしり, 家族の調理も要求したり, 些細なことでヘルパーを責めたりする。本人は妻に対し, 負い目を感じており, 機嫌を損ねないよう, 妻と一緒にヘルパーに無理な要求をしたりする。</p>
<b>検討内容</b> ※区協議会での議論の概要など	<p>○標準的なサービス支給ではない。施設入所までの特例的サービスが続いている。</p> <p>○無駄なサービスを削っていく状況ではない。白紙からサービスを構築すべき。</p> <p>○サービス利用計画作成対象者として認定し, 相談事業者からしっかりしたアセスメントをして, サービス提供を行っていく。</p> <p>○少なくとも, ヘルパーへの過度の要望は排除していく。</p>

# 障がい者地域自立支援協議会 江南区 事項報告

開催日
平成23年12月13日

タイトル	
ケース情報	<p>(障がい内容, 家族構成, 生活環境等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本人 : 30代男性 精神2級(統合失調症) 母親への依存が高い。家族間でのトラブルあり。</li> <li>・父 : 脳梗塞の後遺症があり、介護保険サービス(入所)利用。</li> <li>・母 : 父(夫)、本人(息子)、今後の生活についての不安で心労。重度の鬱状態</li> <li>・姉 : 母親の見守り等でほぼ同居状態。</li> </ul> <p>○検討課題</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①家族全体へのチームアプローチ</li> <li>②金銭面の負担軽減</li> </ol>
検討内容 ※区協議会での 議論の概要など	<p>①家族全体へのチームアプローチ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ニーズと課題を整理 → 一家族の目標とすべき生活環境を支援者が共有</li> <li>※現在、ニーズ・課題に対して、各担当支援者が支援を実施。</li> </ul> <p>②金銭面の負担軽減</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・父親の介護保険サービスの見直し。現在よりも利用費の負担が少ないサービスを利用できないか。</li> <li>→現在待機中であるが、入所利用時期の見込みは立たず。</li> <li>・老健の利用はできないか。</li> <li>→老健の利用事例について関係者内での情報把握がなかった。確認次第、利用の検討をしていく。</li> </ul>

タイトル	災害時の緊急避難(災害時の要援護者対策)について
ケース情報	<p>(障がい内容, 家族構成, 生活環境等)</p> <p>本人: 40代女性 身体1級(肢体不自由) 両親と同居</p> <p>○7月の大雨災害を体験しての不安</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当日、外からは避難指示のようなものが聞こえてきたものの、自宅で待機していることしかできなかった。</li> <li>・災害時要援護者制度に登録申請しているつもりだったが、民生委員の訪問はなかった。</li> <li>・実際に民生委員が来ても顔がわからないから… 知らない人についていくのは不安だ。</li> </ul>
検討内容 ※区協議会での 議論の概要など	<p>○災害時要援護者制度の概要を把握し、その上で機能強化について協議する。</p> <p>※本会議では、確認事項を含めた意見交換を行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①災害時における要援護者緊急避難(援護体制)の指示連絡について</li> <li>②民生委員の障がい者部会が企画する研修内容について</li> <li>③障がい者名簿について(自治体・福祉サービス事業所へ提供されるもの)</li> <li>④民生委員の負担について</li> <li>⑤民生委員と障がい者支援に従事する機関・事業所との連携体制について</li> <li>⑥地域防災訓練と障がい者の援護体制作りについて</li> </ol> <p>①～③については現状確認を行い、本件は今後も引き続き地域課題として協議していく。</p>

# 障がい者地域自立支援協議会 江南区 事項報告

開催日

平成23年12月13日

タイトル	江南区の問題点, 課題点
検討内容 ※区協議会での 議論の概要など	<p>○委員個人が感じることを挙げてもらった</p> <p>【問題点, 課題点】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・障がい者福祉の拠点づくり</li><li>・地域の社会資源を活かした柔軟なサービス提供体制</li><li>・地域交流イベント・企画提供等)</li><li>・ボランティアの確保・育成(戸別訪問可能な話し相手, 障がい児と遊ぶ など)</li><li>・障がい児支援(福祉サービス、家族・介護者付添い不要の余暇施設 など)</li><li>・住居の確保(GH・CH)、短期入所サービス</li><li>・医療ケアサービス</li><li>・就労移行支援サービス</li><li>・中途障がいの方が交流・作業活動等ができる事業所</li><li>・平日夕方・週末の日中一時支援サービス</li></ul>

# 障がい者地域自立支援協議会 秋葉区 事項報告

開催日

平成23年12月6日

タイトル	福祉的就労の現状と課題
ケース情報	(障がい内容, 家族構成, 生活環境等) 福祉的就労の現状について意見交換
検討内容 ※区協議会での 議論の概要など	1. 課題「工賃アップと利用者支援のジレンマ」 「働く」ことを通じた生きがい作りに主眼を置くと、障がい特性や利用者の個性に合わせ手広く事業を展開しがちで、結果、非効率な運営につながる。 また、工賃アップのため受託作業を増やすと職員も作業に追われ肝心の利用者支援が手薄になることも危惧される。 2. 対応策 (1) 効率化 ① 自主製品の絞込み(Eco、スイーツ、花など) ② 他の障がい福祉施設との協力(PR、人員体制など) ③ イベント開催、参加について、実施効果の観点から見直し (2) 様々な分野との協力 区社協、商店街、学校など

# 障がい者地域自立支援協議会 南区 事項報告

<b>開催日</b>
平成23年11月18日

<b>タイトル</b>	手帳取得の促しについて 外2件
<b>ケース情報</b>	<p>(障がい内容, 家族構成, 生活環境等)</p> <p>① 障がいの認識・理解のない家庭における手帳取得の促しについて</p> <p>② 重度心身障がい者の生活介護について</p> <p>③ アルコール依存のある知的障がい者の生活の立て直しについて</p> <p>要介護状態の父母と同居。キーパーソンは市外在住の姉。本人のADLはある程度自立。家族関係は4～5年前までは安定していたが、父の認知症発症・進行に伴い、母から父への虐待行動や母と本人との争い及び本人の飲酒量増加がみられるようになった。10月上旬、飲酒中に階段から転落して救急搬送され、11月上旬に退院した。一般就労しており、体調回復後は復帰する気持ちがある。働く動機は「酒」であり、それを楽しみに働いている。キーパーソンの姉としては、働いて給与を得ると酒が買えるので、職場復帰を望んでいない。本人の働く意欲を活かし、同時にアルコール過剰摂取の問題を解決することはできるか。</p>
<b>検討内容</b> ※区協議会での議論の概要など	<p>① 障がいの認識・理解のない家庭における手帳取得の促しについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育現場においては、教師が保護者に手帳を勧めるのは難しい。</li> <li>・ 保健師が早期にアプローチしている。早期の対応が望まれる。</li> <li>・ 軽度の知的障がいや発達障がいの疑いがある人は、社会に出ると違和感を持ったり、周囲とマッチできなかつたり、どこかで必ず限界に達する。障がいの認識のない保護者に対しては、同じような状況のケースを引き合いに出して説明すると理解が得られやすい。</li> <li>・ 障がい者が大人になって、互いに支えあいながら活動している現場をみて理解して欲しい。</li> <li>・ どこか一か所の機関が担うのではなく、社会全体が担うような体制が築かれるとよい。</li> </ul> <p>② 重度心身障がい者の生活介護について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 親に寄り添って、サービスの調整について考える必要がある。</li> <li>・ 区内介護保険施設に基準該当の手あげをお願いするにしても、需要(人数・時間等)を把握する必要がある。今後、社協が当事者団体を交えて需要を把握する。</li> </ul> <p>③ アルコール依存のある知的障がい者の生活の立て直しについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一般就労か福祉的作業かの二者択一ではなく、両方通うことを目指す。</li> <li>・ 作業所でアルコールの指導や、金銭管理をすることができればいい。例えば、月曜から木曜まで一般就労して、金曜に作業所へ通ってもらい、そこで飲み過ぎない程度の給与を与えることはできないか。→金銭管理は無理との結論。</li> <li>・ 当面、会社での一般就労は困難。通勤も冬の雪道は危険が伴うので、春まで施設通所でリズムを整えた方がよい。</li> <li>・ 家庭内で何かしらの問題点があつて、過剰摂取するのでは。そのきっかけを見つけることも必要。</li> <li>・ 民間の断酒会に家族と一緒に参加してみるのもいいのでは。</li> </ul>

# 障がい者地域自立支援協議会 西 区 事項報告

開催日

平成23年11月16日

タイトル	西蒲高等特別支援学校における通学不安について 等
検討内容 ※区協議会での 議論の概要など	<p>・西特別支援学校施設見学・質疑応答</p> <p>【ケース1】</p> <p>・西特別支援学校卒業後、交通手段が無いという理由だけで、進学を諦めざるを得ないかと、不安に思う保護者が多い。教育を受ける権利という観点からも、通学を確保する手段を今後検討していきたい。</p> <p>【ケース2】</p> <p>・60代歳男性(躁うつ、知的障がい、身体障がい、通所、90代母と同居)の親亡き後について。母親が90代と高齢であるために、亡き後の生活支援をどうしていくべきか。しばらく通所しているかと思えば、翌日から6ヶ月欠勤し、ある日突然、通所が始まる。何がきっかけで通所しなくなり、通所するようになるかは不明である。精神障がい者は、新たな人脈形成が苦手なため、事が起きてからの対応では間に合わない。現段階にて相談支援事業者と顔見知りになるような機会を設けるべき。</p> <p>【ケース3】</p> <p>・夫婦とも精神障がい者で、通帳・印鑑・保険証・免許証を病院CWが保管している。日常生活自立支援事業を病院CWが実施できないか。できないならリスクが大きいため、現在の行い方は避けるべきである。日常生活自立支援事業を利用し、社協と病院CWの双方で支援していく事が望ましい。</p>

# 障がい者地域自立支援協議会 西蒲区 事項報告

開催日
平成23年11月28日

タイトル	平成23年度第3回西蒲区障がい者地域自立支援協議会
ケース情報	<p>(障がい内容, 家族構成, 生活環境等)</p> <p>○ケース1・・・40代男性 体幹不自由3級, 精神障がい手帳:1級, パチンコ依存症</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家族構成: 母親・妹・姪・甥の4人家族</li> <li>・困難状況① 脳疾患により歩行が困難(歩行器使用)。幻聴, 睡眠障害, 興奮しやすい。 介護は母親が対応, 母親に頻りにパチンコ資金を無心し, 警察沙汰のトラブルを起こしている。</li> <li>・困難状況② 家族・本人とも近隣病院への入院・入所を希望→満床のため入院不可 短期入所は受入れ可能だが, 母親は月1万円が負担限度と言っており, 長期受入れは不可</li> </ul> <p>※対応方針等: 母親の現状認識の甘さを改めていく方向でサポート。警察に協力を依頼する。 進行性疾患であり, 今後は年齢とともに問題行動が解消される可能性が高いことから, 当面は粘り強く自宅介護に対応しながら, 遠方病院への入院・長期間入所について家族への説得を行なう。</p> <p>○ケース2・・・20代男性 アスペルガー症候群, 強迫性障がい, うつ病: 要因: 高校時代(部活のストレス)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家族構成: 父・母・妹・弟との5人家族, 兄は別居</li> <li>・困難状況: 極度の「不潔」嫌いから異常行動</li> </ul> <p>※対応方針等: 母親への暴力行為を契機に, 母親に集中する介護や家事を見直し, 母親以外の家族も家事・介護を分担するようサポートした結果, 異常行動は改善されないものの, 家族の変化を肌で感じ, 自分の誤りに気づき始め, 相手の立場を考えてくれるようになった。</p>

# 障がい者地域自立支援協議会 東 区 事項報告

開 催 日
平成24年2月15日

タ イ ト ル	在学中障がい児の地域との連携について
ケ ー ス 情 報	<p>(障がい内容, 家族構成, 生活環境等)</p> <p>&lt;本人の状況&gt;</p> <p>特別支援学校に在籍の女兒。身体障害者手帳, 脳原性運動機能障害3級所持。 まひはあるが, 独歩可。長距離は車いす。知的な遅れはないが, 発達障がいの可能性あり。 祖父・祖母・母と同居。主な介護者は祖母。母は精神手帳2級(統合失調症)で介護力は低い。</p> <p>&lt;相談内容・経過&gt;</p> <p>集団でいじめられた体験から, 一人でトイレに行けず, 過呼吸などの身体症状もある。 気づかずに相手を傷つける言動があり, 対人関係がうまく築けない。 母は, 突然 家を出たいと言い出すなど, 精神状態の波があり, 本人に影響している。 ⇒地域と連携し, 本児に社会に出る力を身につけさせたい。</p>
検 討 内 容 ※区協議会での 議論の概要など	<p>&lt;ケースへの対応&gt;</p> <p>複数回, 校内ケース会議, および教育支援相談センターによるカウンセリングを実施。 教育的配慮から, 学校の寮に, 週1回宿泊を始めた。</p> <p>&lt;今後の課題と提案&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 幼少時からの療育情報を共有するために, 個別支援ファイルが作成されるようになったが, 学校卒業後も継続して活用していくためには, 保護者の理解と意識向上が必要。</li> <li>○ 療育手帳を取得しても, その後のサービスが, 人生としてつながっていない。</li> <li>○ 児相・知更相での判定結果を, 手当・障害年金等の申請時に活用できる仕組みがあるとよい。</li> <li>○ 児童の相談支援事業を, 敷居の低いサービスとして早急に周知し, 整備する必要あり。</li> </ul>

# 障がい者地域自立支援協議会 中央区 事項報告

開催日
平成24年2月1日

<b>タイトル</b>	(1) 宗教に執着し、GH、職を失った知的障がい者に対する生活支援について
<b>ケース情報</b>	<p>(障がい内容、家族構成、生活環境等)</p> <p>20代男性。手帳なし。療育手帳B。障害程度区分1。</p> <p>父親・・・幼少時離婚、母親、姉・・・県外在住。</p> <p>養護学校から入所授産施設へ進み、店で3年ほど就労。          宗教にのめりこみ、解雇。グループホーム入所し就労していたが、他利用者への強引な勧誘が理由でグループホーム閉鎖となり、アパートで独居となる。          彼女と結婚をしたいと考え、就労への思いは強いが行動が伴わない。「赤ちゃんができれば産む。」と話していたため、保健センター所長から結婚や親になることについて話し、個別で避妊指導を行う。          保護課、相談支援事業者、ヘルパー事業所を交え、福祉サービスを使わず、自立できる見守り体制を構築。</p>
<b>検討内容</b> ※区協議会での議論の概要など	<ul style="list-style-type: none"> <li>○働いていた頃は店長の存在が大きく、トラブルを未然に防ぐことができていた。今はセーブする人がいないこともあり大きくなりすぎてしまっているのでは。</li> <li>○定期的に関係者間で情報共有をし、自立へ向けての推移を見守る必要がある。</li> <li>○自立に有効なサービスは何か考慮する必要がある。</li> <li>○今回のような知的障がい者への避妊指導は、他へも応用できるのではないか。</li> <li>○過去を知っている人が支援者や周囲にいることは大きい。</li> </ul>

<b>タイトル</b>	(2) 人工肛門の処置に無関心、障がいの受容が困難だった男性が自己解決力をつけての自立について
<b>ケース情報</b>	<p>(障がい内容、家族構成、生活環境等)</p> <p>50代男性。身体手帳(内部障がい)、精神保健福祉手帳(躁うつ病)所持。</p> <p>精神疾患を患ってから離婚。元妻との間に多数の子供がいる。</p> <p>運転手として20年つとめ、躁うつ病で退職、離婚。一年半精神自立支援施設に入所。退所後ホームレスの状態で保護される。保清に関する意識が低く室内外便汚染。          自宅近くの作業所に通所し、対外的な活動を行う中、『身ざれいにしないと。』との意識が生まれ、入浴、パウチ交換を熱心に行うようになる。          作業所からは皆勤賞がいただけるほど熱心に通所。「やっぱり普通の仕事がしたい。」と、作業所の通所と平行してハローワークに求職。          その後就職、生保卒業、出身の区に戻り新生活スタート。サービス終了。</p>
<b>検討内容</b> ※区協議会での議論の概要など	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生活保護を卒業し、就労に至るケースは珍しいが、意識を変えた作業所の力は大きい。</li> </ul>

# 障がい者地域自立支援協議会 中央区 事項報告

開催日
平成24年2月1日

<b>タイトル</b>	(3)統合失調症が疑われ、公共施設で暴れ、警察沙汰となる女性について
<b>ケース情報</b>	<p>(障がい内容, 家族構成, 生活環境等)</p> <p>30代女性。手帳なし。統合失調症と診断されたことはあり。</p> <p>父母本人の3人世帯。</p> <p>公共施設利用時、他利用者への暴言あり。制止する職員に対して暴行。日によって状態に波あり。</p> <p>本人の価値観にのっとり、周囲の人に対し見境無く意見を述べる。</p> <p>統合失調症と診断されたことがあると話すも、本人自身に病識は全くない。(「私は何をしても逮捕されない。警察を呼んでも無駄。」との本人の話あり。都合の良いときのみ病気を利用。)</p> <p>同居の父親に殴られることがある。</p> <p>ヘルパー資格, ベビーシッター資格をとっている。区社協などに来所し、「ヘルパーとして働きたい」と申し出がある。人の世話を焼きたい性格。</p>
<b>検討内容</b> ※区協議会での 議論の概要など	<p>○本人より統合失調症との言葉もであるが、自分の都合でうまく使い分けている部分がある。病気の症状だけではないのではないか。</p> <p>○障がいや病気の有無に関係なく暴力など法を犯せば直ちに警察へ通報すべき。</p>

# 障がい者地域自立支援協議会 江南区 事項報告

開催日

平成24年3月21日

タイトル	施設入所者の退所後の生活場所の確保
ケース情報	<p>(障がい内容, 家族構成, 生活環境等)</p> <p>40代男性 身体障がい(下肢不自由5級, 腎臓機能障害1級)</p> <p>家族: 両親死亡, 兄は県外に居住。</p> <p>糖尿病腎不全により人工透析。入所中。</p> <p>体調不良(特に透析後)になることが多く, 居間で寝ていることが多い。食事に関し自己管理が難しい。</p> <p>コミュニケーションは問題ないが, 人間関係は, 積極的に関わらない。</p>
検討内容 ※区協議会での 議論の概要など	<p>○退所後の居住先</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・週3回の透析と透析後体調不良となりやすいためタクシーを利用。食事制限。身近に協力者がいない。</li><li>・グループホームなどの施設希望(市内で失踪経験あるため一人暮らしでないところ)。</li></ul> <p>○日中の居場所</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・福祉的就労希望だが, 体調面から難しいが, 作業所等行き場がない場合ひきこもりとなることが心配。</li></ul> <p>◎意見</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・江南区は資源がないため, 江南区域で探すのは難しいだろう。</li><li>・病院近くに透析する人が多く入っているアパートもある。</li><li>・透析を受けている人は医療行為が出てくる可能性が高くなるため, 受け入れる施設は少ないだろう。</li><li>・自宅を改装しては? → 改装は最終手段と考えている。</li></ul> <p>★今回の意見を参考に探して見ます。</p>

<p>タイトル</p>	<p>精神障がい者への支援の課題</p>
<p>ケース情報</p>	<p>(障がい内容, 家族構成, 生活環境等) ◆意見交換会報告 …別紙1</p>
<p>検討内容 ※区協議会での議論の概要など</p>	<p>◆支援機関によるネットワークについて確認</p> <div data-bbox="470 616 1316 1288" style="text-align: center;"> <p>♣精神障がい者支援の体系(秋葉区)♣</p> </div> <p>◆今後の展開(平成24年度協議会～)</p> <p>関係機関が連携して対応するケースの検討を通じて課題を整理、仕組み作りにつなげる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アプローチの工夫(相談支援、ヘルパー、日中活動)</li> <li>・地域移行/定着(住まいの確保、就労支援)</li> </ul>

**秋葉区障がい福祉意見交換会**  
**「精神障がい者への支援の課題」(まとめ)**

第1回：平成23年12月26日(月) 15:00~17:00

第2回：平成24年 1月17日(火) 9:30~12:00

場所：秋葉区役所502会議室

1. 参加者名簿

所 属	氏 名(敬称略)
新津信愛病院/さつき荘	鈴木/五百川
ぶどう工房	信田
地域活動支援センターいしずえ	松井
ワークセンターほほえみ	中野
秋葉区社協/新津訪問介護センター	加野/保倉
自立支援センターまんにち	清水/本間
秋葉区健康福祉課障がい福祉係	森田/村山
秋葉区健康福祉課地区担当	木伏(CW)/番場(保健師)

2. ケース検討

**ケース1：40代(男性)統合失調症【区ケースワーカー】**

- ①遅い発病=介護者の高齢化                     ・・・将来への不安、成年後見
- ②当人達から確かな情報が取れない・・・見守り、情報共有
- ③病識の欠如、不安定な服薬                     ・・・アプローチの工夫

**ケース2：20代(女性)統合失調症【ワークセンターほほえみ】**

- ①受入れノウハウの不足                             ・・・相談支援事業所、保健師仲介
- ②特に若年者の今後の支援                           ・・・施設や気軽な居場所が少ない
- ③親が子供の障がいを受容できない・・・家庭での支援不足

**ケース3：50代(男性)うつ病【区保健師】**

- ①単身生活者への夜間の対応                     ・・・夜間の見守り体制確保
- ②サービス利用に係るこだわり                   ・・・担当者固定化、過度な要求

**ケース4：40代(男性)うつ病・身体表現性障害【社協訪問介護センター】**

- ①ヘルパーの助言聞き入れない                   ・・・アプローチの工夫
- ②急な依頼が多く対応困難                       ・・・緊急時の体制がとれない
- ③訪看クローバー利用者多数                   ・・・全てのニーズへの対応は困難

**ケース5：40代(男性)統合失調症【ぶどう工房】**

- ①遅い発病=介護者の高齢化                     ・・・一人暮らしの支援(相談・訓練機関)
- ②自己の現状認識ができない                   ・・・アプローチの工夫(情報共有・訪問)

### ケース6：20代（女性）情緒不安定性人格障害【新津信愛病院】

- ①自己管理不良（金銭・食物・異性）・・・入所・訓練施設が少ない
- ②入院中、関係機関・地域との関わりが希薄・・・サービス利用、閉鎖的体質

### ケース7：20代（女性）療育手帳B、統合失調症【区障がい福祉係】

- ①知的障がいのある精神障がい者・・・対応困難ケース
- ②家族の協力・介護力の欠如・・・アプローチの工夫（共有・訪問・虐待）

### ケース8：【秋葉区社協】

ボランティア希望の障がい者と受入側のミスマッチ・・・支援者の仲介

## 3. その他

新津信愛病院さつき荘（福祉ホームB型）、みのわ荘（精神障害者生活訓練施設）が、平成24年4月から共同生活援助（グループホーム）に移行する。  
移行後定員は20名、当直制24時間運営、サビ管1名、世話人5名体制。  
現在入居者のうち7名は、別の施設等へ移る方向で現在調整中。  
今後は、退院後の訓練施設がなくなるため在宅支援がより重要となる。

## 4. まとめ

### 他の障がいと精神障がいの違い／特徴

- (1) 精神障がいは、病気とそれによる生活のし難さを併せ持った状態  
→医療と福祉の連携
- (2) 遅い発病（統合失調症発症の多くは10～30代）＝介護者の高齢化  
→支援体制の不足が、より大きな負担と不安
- (3) 地域で精神障がい者を支える体制が不十分  
→「医療と福祉の連携」ネットワーク構築（チームでの支援）

分野	課題	今後の方向性
1. 医療（治療）	(1) 訪問（看護・診療）の不足 (2) 社会的入院が減らない（連携不足） (3) 入所／訓練施設の不足	「地域精神医療」の更なる充実
2. 福祉	(1) 対応ノウハウの不足 (2) 24時間×365日支援体制の不足 (3) 入所／訓練施設の不足 (4) 就労先・気軽な居場所の確保が困難 (5) 住まいの確保が困難 (6) 成年後見制度の利用が進まない	「自立／社会復帰」 相談・支援体制強化 就労支援・住居確保
3. その他	精神障がいに対する理解不足	「普及啓発・予防」

# 障がい者地域自立支援協議会 秋葉区 事項報告

開催日
平成24年2月7日

タイトル	平成24年度秋葉区障がい者地域自立支援協議会について
ケース情報	(障がい内容, 家族構成, 生活環境等) 1. 委員の構成について (1)基本的な枠組み (2)当事者(団体等)との連携 2. 参考 平成22年度・23年度協議会(まとめ)・・・別紙2
検討内容 ※区協議会での 議論の概要など	1. 基本的な枠組みは、平成22・23年度と同じ構成とする。 2. 障がい児コーディネーターを新たに加える。 3. 当事者(団体等)は、区協議会の委員として依頼はしないが、 これまでどおり必要に応じて、区協議会に出席いただく他、ヒアリングを行うなど配慮する。 また、現在、当事者団体が参画している「秋葉区地域福祉計画」(事務局:区健康福祉課) との情報共有を図る。 4. 委員推薦スケジュール(予定) 人事異動等を考慮し、平成24年4月中に各所属宛てに推薦依頼を送付。 5月上旬に委員決定。

## 秋葉区障がい者地域自立支援協議会のあゆみ

## 1. 委員名簿

## 2. 経緯と主な議題

平成 22 年度／秋葉区障がい者地域自立支援協議会

開催	議題	情報共有／課題	対応など
第 1 回	1. 平成 22 年度協議会の運営について 会長・副会長の選出 2. 協議会の進め方について 3. 情報提供	1. 会 長 神田委員（満日） 副会長 村越委員（包括） 2. 区づくり事業 PR	
第 2 回	ケース検討 「重度身体障がい児への支援」 当事者出席・説明（市長への手紙）	1. 治療・リハビリ・交流が 1 箇所ですべてできる施設がない。 2. 移動に係る支援がない。	運営事務局会議意見 1. 稀ケース、過大な要望 2. 寄り添い支援
第 3 回	1. ケース検討 （1）「重度身体障がい児への支援」経過報告 （2）「地域に埋もれている障がい者への支援」 2. 情報提供 「高等養護学校卒業予定者の進路等状況」 県立高等養護学校 久保田先生	1. ケース検討 （1）現状確認 （2）相談支援事業者の活用 2. 情報提供 施設の受入状況の情報不足 →hp、学校実施調査活用	今後の課題 1. ケース検討 （2）区の相談体制の確認 ①市委託相談（まんいち） ②県指定相談（各施設） ③民間（親和福祉会） ④区役所
第 4 回	ケース検討 「短期入所の長期かつ継続利用の問題」 （ロング・ショートの問題）	1. 他の利用希望者への支障 2. 24 時間体制ケアホームがない	ニーズ調査検討（次年度へ）

平成 23 年度 / 秋葉区障がい者地域自立支援協議会

開催	議題	情報共有 / 課題	対応など
第 1 回	1. 平成 23 年度協議会の運営について 人事異動に伴う会長職務代理選任 2. 22 年度検討ケース経過報告 3. 区内の相談窓口 4. グループ / ケアホーム (GH / CH) ニーズ 5. 情報提供	1. 神田会長 → 村越会長代理 3. 民協定例会で「まんいち」PR 4. 全市アンケート結果から、ニーズあり。 5. 情報提供 (1) 秋葉区障害施設連絡協議会 (2) 県江南高等特別支援学校 (3) 市障がい者施策推進協議会 (4) 区づくり事業 PR	4. GH / CH の課題について ワーキンググループで検討 (※) ワーキンググループ 【構成】協議会委員、区 その他、関係者 【頻度】区協議会の合間 2 回程度
第 2 回	1. 「障がい者とその家族への支援」 ◆GH / CH ワーキンググループ報告 リーダー上杉委員 (満日の里) 2. 平成 23 年度協議会検討テーマについて	1. (1) GH / CH が少ない (2) 24 時間体制なし ほか 2. (1) 就労支援 (2) 精神障がい者支援	1. 施設送迎マップ作成 2. テーマごとに WG 立ち上げ 次回、就労支援
第 3 回	1. 「重度心身障がい児の家族への支援」 2. 「就労支援 (福祉的就労) の現状と課題」 ◆就労支援ワーキンググループ報告 リーダー竹内委員 (けやき福祉園) 3. 情報提供 4. 運営事務局会議の再編について	1. 医療的ケアの現状 (1) 福祉・医療 (訪問看護) (2) 他の自治体の取組み 2. 支援現場のジレンマ (1) 利用者支援と工賃アップ (2) 利用者支援と効率 3. 情報提供 (1) 区ふれあいショップ (2) クリスマスイベント	1. 運営事務局会議へ回る (1) 訪問看護ニーズの再確認 (2) 今後の方向性 2. 協力体制の検討 (1) 障がい福祉施設間 秋葉ブランド化 (2) その他 社協、コミ協など
第 4 回	1. 「精神障がい者への支援の課題」 ◆ワーキンググループ報告 リーダー鈴木委員 (新津信愛病院) 2. 平成 24 年度区協議会について		

# 障がい者地域自立支援協議会 南区 事項報告

<b>開催日</b>
平成24年2月17日

<b>タイトル</b>	通学支援部会報告 外3件
<b>ケース情報</b>	<p>(障がい内容, 家族構成, 生活環境等)</p> <p><b>【1】通学支援部会報告</b></p> <p><b>【2】ケース検討(在宅で筋ジスが進行している障害者の支援について)</b></p> <p><b>【3】今回の任期を振り返って(各委員より2年間の任期を振り返っての所感)</b></p>
<b>検討内容</b> ※区協議会での 議論の概要など	<p><b>【1】通学支援部会報告</b></p> <p>現在西蒲高等特別支援学校へ通学支援バスが試行運転されている。保護者の会が主体となって、バス運行経費等を利用者が負担している。利用者負担が高いとの声があったり、現場実習時の利用人数減少など、課題はあるものの、来年度からは保護者会の規定を作って運行される予定。</p> <p><b>【2】ケース検討(在宅で筋ジスが進行している障害者の支援について)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今回のケースに事例提案委員が関わったきっかけは、災害時の対応について地域から声があがったことによる。平成19年につくられた災害時の名簿があり、名簿に登載された人については事業所が援護するというもの。このケースと関連して浮上した課題であるが、今もこの名簿が有効だと思っている要援護者は少なからずいるので、まずは取扱いを明確にすべきとの指摘があった。</li> <li>・災害時の対応については、今年度の水害により自治会内でも白熱した議論が交わされており、見直しの必要なども迫られている。合併して新潟市の名簿が始まる前に、白根市の名簿はあった。後から新潟市としての名簿が導入されて、それに塗りつぶされるような形で白根市の名簿は曖昧な状態になってしまったのではないかと。どうすべきかという議論はあるが、福祉の分野だけでは決められない問題である。課題を整理して、役割分担が必要。南区だけの話に止まらないので、全市的な見直しが行われている最中である。</li> <li>・このケースの課題として、だれか責任をもってサービスをコーディネートするのかという問題提起があった。これについて来年度から法改正により導入されるサービス利用計画について事務局より説明。4月1日より順次導入して、3年後にすべての利用者にサービス利用計画が付けられるもの。3年の期間において優先的に導入されるのは、施設入所支援利用者などであり、その点について各委員より落胆の声がもれる。</li> <li>・任意後見人をつけて、代理行為をしてもらってはとの意見があった。</li> </ul> <p><b>【3】今回の任期を振り返って(各委員より2年間の任期を振り返っての所感)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・通学支援では光がみえたので、意味はあったと思う。</li> <li>・学校現場で、子供たちの発達障がいなどをみてきたが、大人の障がいも大変なのがよくわかった。</li> <li>・通学支援部会の報告も先例などを調べて上手くまとめて、大変素晴らしいと思った。</li> <li>・生まれてから、ずっと地域で安心・安全に暮らせるのは目的であるが、その目的は果たされるのか、果たされようとしているのか、今は疑問に感じている。災害時の対応を地域において検討する際にも、福祉を知っている人が地域に加わることが地域発展にとっては必要だと思う。</li> <li>・協議会を通じて普段の仕事ではわからないような、南区全体の課題を知ることができて参考になった。</li> </ul>

# 障がい者地域自立支援協議会 西 区 事項報告

開催日

平成24年2月13日

タイトル	平成24年4月からの制度改正に係る協議
ケース情報	(障がい内容, 家族構成, 生活環境等) 障害者自立支援法, 児童福祉法等に改正による制度改正について, 情報を共有し, 西区としてどのように取り組んで行くべきか話し合った。
検討内容 ※区協議会での 議論の概要など	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 入所施設におけるサービス利用計画については, 当該施設に計画作成を認めると, 本来の国の意向である地域移行を推進するためという趣旨は果たされない。</li><li>・ 現在, 施設入所者相談会を委託相談支援事業所が行っているもので, その流れで委託事業書がある程度計画を作成するような方針でもよいのではないか。</li><li>・ 入所施設側から考えると, 外部の機関がサービス利用計画を立てるといっても, 現実の生活状況を一番よく知っているのは24時間365日の生活を支援している入所施設であるので, きちんと計画を立てられるのか疑問がある。</li><li>・ 地域移行を目的として計画を立て支援していくとしても, 現実的に地域生活へ移行する際の社会資源であるGH/CHが不足している状況にある。これが真の問題である。</li><li>・ 通所施設としては, 利用者の支援(相談含む)で手一杯であり, 現状では指定特定相談支援の指定を受け, 地域の人たちのサービス利用計画作成や相談支援をしていく余裕がない。また, 相談支援専門員がいない。</li></ul>